

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地				
専門学校千葉県自動車大学校	昭和45年1月30日	竹中 正浩	〒261-0002 千葉県千葉市美浜区新港156 (電話) 043-247-0848				
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地				
千葉県自動車整備 商工組合	昭和41年6月9日	出野 祥平	〒261-0002 千葉県千葉市美浜区新港156 (電話) 043-247-0848				
目的	本校は、教育基本法及び学校教育法に基づき、自動車整備について専修学校教育を行い、その応用能力とすぐれた人格とを涵養し、もって自動車業界に有用な実践力に富む中堅的人材を育成することによって、交通産業の健全な発展を期することを目的とする。						
分野	課程名	学科名		専門士	高度専門士		
工業	自動車整備専門課程	一級自動車研究科			平成19年文部科学省告示第27号		
修業年限	昼夜	総授業時数	講義	演習	実習	実験	実技
4年	昼間	4796	1352	0	3444	0	0
単位時間							
生徒総定員	生徒実員		専任教員数	兼任教員数		総教員数	
100人	57人		8人	2人		10人	
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日		成績評価	■成績表 有 ■成績評価の基準・方法 平常評価及び平常試験、学期末試験、進級試験、卒業試験により行う。			
長期休み	■学年始:4月1日～4月7日 ■夏季:8月1日～8月31日 ■冬季:12月23日～1月7日 ■学年末:3月23日～3月31日		卒業・進級条件	進級試験の学科及び実技試験において以上の成績を修めた者に対し、学校長が二級自動車整備士養成課程の修了の認定を行う。卒業試験の学科及び実技試験において以上の成績を修めた者に対し、学校長が卒業の認定を行う。			
生徒指導	■クラス担任制 有 ■長期欠席者への指導等の対応 朝礼時、授業開始時に出席確認。無断欠席、遅刻はその理由を確認。本人、保護者と面談。家庭訪問を実施。		課外活動	■課外活動の種類 工場見学・モーターショー見学・研修旅行他 ■サークル活動 有			
就職等の状況	■主な就職先、業界等 自動車ディーラー・整備専門工場・自家整備工場他 ■就職率 ^{※1} 100 % ■卒業者に占める就職者の割合 ^{※2} 100 % ■その他 (平成 26 年度卒業者に関する平成27年4月1日 時点の情報)		主な資格・検定等	一級小型自動車整備士資格 二級ガソリン自動車整備士資格 二級ジーゼル自動車整備士資格 ガス溶接技能講習修了資格 アーク溶接業務特別教育修了資格 有機溶剤作業主任者技能講習修了資格 日本損害保険協会募集人資格 低圧電気取扱業務特別教育修了資格			
中途退学の現状	■中途退学者 4名 平成27年4月1日 在学者 67名 平成28年3月31日 在学者 63名 ■中途退学の主な理由 進路変更・経済的理由・体調不良 ■中退防止のための取組 クラス担任によるカウンセリング・保護者も交えた面談		■中退率 7 % 平成27年4月1日 入学者を含む) 平成28年3月31日 卒業者を含む)				
ホームページ	http://www.cats.ac.jp						

※1「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」の定義による。

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものとする。

②「就職率」における「就職者」とは、正規の職員(1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいう。

③「就職率」における「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まない。

(「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年次に在籍している学生等としている。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除いている。)

※2「学校基本調査」の定義による。

全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいう。

「就職」とは給料、賃金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいう。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしない(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う。)

1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

本校の学生教育は教育方針(①より高い人格の育成②練磨された技能の修得③お客様に信頼と満足を提供できる人材の育成)に基づき行われると共に、教育課程編成委員会と連携する事で主体的かつ統括的に専攻分野に関する企業の意見や要請を把握、分析し実践的かつ専門的な職業教育を行う。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成28年4月1日現在

名 前	所 属
和田 一雄	一般社団法人 千葉県自動車整備振興会 常務理事
大沼 栄次郎	一般社団法人 千葉県自動車整備振興会 事業部部長
大地 励	千葉日野自動車株式会社 整備部 部長
杉田 弘幸	有限会社 杉田モータース 専務取締役
小川 保	有限会社 両国自動車 専務取締役
吉井 康雄	株式会社 吉井自動車工業 代表取締役
山田 和弥	日整学園 千葉県自動車総合大学校 学校長
竹中 正浩	専門学校千葉県自動車大学校 学校長
廣瀬 浩明	専門学校千葉県自動車大学校 教育部 部次長
風戸 一晃	専門学校千葉県自動車大学校 教育部教務課 教務課長

(開催日時)

第1回 平成28年11月28日 13:30～15:00

第2回 平成29年1月24日 13:00～15:00

2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

自動車整備業界が必要とする最新・高度な整備技術を学生に修得させるため、演習・実習等の指導及び授業内容方法の検討補助、また、学修成果の評価に関する補助などについて外部自動車関連企業と連携して行う。

科目名	科目概要	連携企業等
ジーゼルエンジン 実習	コモンレール式ジーゼルエンジンの知識・整備方法を修得する。	千葉日野自動車株式会社
体験実習 (インターンシップⅠ)	認証・指定整備工場でのインターンシップ(整備、接客)	(有)杉田モータース、(株)吉井自動車工業、(有)加藤自動車工業、(株)ハルミコーポレーション、(株)スズキオート、他9社
体験実習 (インターンシップⅡ)	認証・指定整備工場でのインターンシップ(整備、接客)	千葉トヨタ自動車(株)、千葉スバル自動車(株)、千葉日産自動車(株)、(株)ホンダカーズ千葉、千葉日野自動車(株)、他7社

3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

職員に対して、現在就いている職又は将来就くことが予想される職に係る職務の遂行に必要な知識または技能等を修得させるため、その遂行に必要な能力及び資質等の向上を図るために有効な研修を行う。

4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成28年4月1日現在

名 前	所 属
杉田 弘幸	有限会社 杉田モータース 専務取締役
吉井 康雄	株式会社 吉井自動車工業 代表取締役
市東 勝美	一般社団法人 千葉県自動車整備振興会 専務理事
遠藤 恵一	一級自動車研究科2年生 保護者
加藤 高明	元 千葉県自動車大学校 学校長
一藁 豊	元 県立高等学校 校長

(学校関係者評価結果の公表方法)

URL: <http://www.cats.ac.jp>

5. 情報提供

(情報提供の方法)

URL: <http://www.cats.ac.jp>

授業科目等の概要

(工業専門課程一級自動車研究科) 平成26年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			自動車工学	自動車の定義、構造、材料、機械要素、燃料、潤滑剤等の概要を理解していること。図面の見方がわかること。	1前	30	15	○			○	○			
○			自動車力学	自動車に関する力、速度などの理論、原理、法則を理解しているとともにそれらの計算ができること。	1後 2前	60	30	○			○	○			
○			電子工学	電子の基礎的事項を理解しているとともに、電氣的計算ができ、かつ応用例について構造、機能及びその正しい取扱い方法、測定方法を理解していること。	2前	50	25	○			○	○			
○			ガソリン・エンジン構造	ガソリン・エンジンの構造、機能について理解し、それらの説明ができること。	1前 2前	100	50	○			○	○			
○			シャシ構造	自動車シャシ各装置ごとの構造、機能について理解し、それらの説明ができること。	1前 2前	100	50	○			○	○			
○			ジーゼル・エンジン構造	ジーゼル・エンジンの構造、機能について理解し、それらの説明ができること。	1前 2前	60	30	○			○	○			
○			電装品構造	自動車電装の構造、機能について理解し、それらの説明ができること。	1前後	50	25	○			○	○			
○			ハイブリッド車構造	ハイブリッド車両の種類や構造について理解し、それらの説明ができること。	1後	10	5	○			○	○			
○			自動車整備法	自動車のエンジン、シャシについての基本的な整備方法について理解していること。	1前後	32	16	○			○	○			
合計					9科目		492単位時間(246単位)								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業試験の学科及び実技試験において可以上の成績を修めた者に対し、学校長が卒業の認定を行う。 (留意事項)	1学年の学期区分	前期後期
	1学期の授業期間	48週

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(工業専門課程一級自動車研究科) 平成26年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			総合整備法	自動車の整備方法について総合的に理解していること。	1後	80	40	○			○	○			
○			ハイブリッド車整備法	ハイブリッド車両の基本的な整備方法について理解していること。	2後	20	10	○			○	○			
○			エンジン診断法	エンジンについて基本的な故障診断の方法として、現象の確認、原因の推定、再発の防止について理解していること。	1後	30	15	○			○	○			
○			自動車シャシ診断法	シャシについて基本的な故障診断の方法として、現象の確認、原因の推定、再発の防止について理解していること。	1後	30	15	○			○	○			
○			エンジン故障原因探求	各エンジン及び電装品の装置ごとの故障の内容と、その徴候、原因発見方法を理解しており、かつ発生し得るであろう故障原因とその徴候について考察できること。	2後	30	15	○			○	○			
○			シャシ故障原因探求	シャシ各部及び電装品の装置ごとの故障の内容と、その徴候、原因発見方法を理解しており、かつ発生し得るであろう故障原因とその徴候について考察できること。	2後	30	15	○			○	○			
○			整備作業機器	自動車整備用工具、測定具、機械工具等についての構造、機能、正しい取扱い方法、保守管理の方法を理解していること。	1前	40	20	○			○	○			
○			自動車検査	自動車の検査機器の構造、操作方法を理解しているとともに、点検、検査についての内容および、法的根拠を理解していること。	2後	30	15	○			○	○			
○			自動車関係法規	自動車整備関係法令を理解し、点検整備、検査、運転の実務に密接した知識を持ち、それを実務に活用できること。	1後	30	15	○			○	○			
合計					9科目		320単位時間(160単位)								

卒業要件及び履修方法	授業期間等
卒業試験の学科及び実技試験において可以上の成績を修めた者に対し、学校長が卒業の認定を行う。 (留意事項)	1学年の学期区分 前期後期
	1学期の授業期間 48週

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(工業専門課程一級自動車研究科) 平成26年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			一般教養	学生として基本的な躰及び生活習慣を身に付けていることと、整備業界についての基礎的知識を有していること。	1前	10	5	○			○		○		
○			C・S	基本的な接客法と顧客満足度を高める方法を理解していること。	2後	10	5	○			○		○		
○			ビジネスマナー	ビジネス実務遂行に必要な基本的な知識と技能を持っていること。	1前	10	5	○			○		○		
○			経営学	経営の基本的要素を理解し、経営の現状を知り、将来における企業経営のあり方について認識できること。	2後	10	5	○			○			○	
○			工作実習	手工具、仕上げ工具、機械工具、溶接、切断器具等が正しく使用でき、図面通りの物品が作れること。	1前	52	26			○	○			○	
○			測定実習	測定器具、テスター等を使用して、自動車の各部分品及び各装置について、目的に合った正しい測定具が選べ、正しく取扱い、正確に測定ができること。	1前	52	26			○	○			○	
○			機械修正実習	エンジン、シャシの部品、機械要素等について、修正器具等を使用し、許容範囲内に修正することができること。	1前	52	26			○	○			○	
○			ガソリン・エンジン実習	ガソリン・エンジンの分解、測定、組立、調整等ができること。	1前 2前	256	128			○	○			○	
○			シャシ実習	自動車シャシ（ぎ装含む）各部の分解、測定、組立、調整等ができること。	1後 2前	256	128			○	○			○	
合計					9科目		708単位時間(354単位)								

卒業要件及び履修方法	授業期間等
卒業試験の学科及び実技試験において可以上の成績を修めた者に対し、学校長が卒業の認定を行う。 (留意事項)	1学年の学期区分 前期後期
	1学期の授業期間 48週

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(工業専門課程一級自動車研究科) 平成26年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			ジーゼル・エンジン実習	ジーゼル・エンジンの分解、測定、組立、調整等ができること。	1 前 2 前	224	112			○	○		○		○
○			電装品実習	自動車電装品の分解、測定、組立、調整等ができること。	1 後 2 前	224	112			○	○		○		
○			点検実習	定期点検が完全にできるとともに、自動車全般の良否判定をはじめ、性能試験ができること。	1 後 2 後	272	136			○	○		○		
○			各種装置実習	排出ガス、省燃費対策機構等の点検、検査、整備作業ができること。	2 後	64	32			○	○		○		
○			検査実習	定期点検、車検整備、故障整備に係る部位の測定、検査ができ、良否をはじめ判定ができること。	2 後	64	32			○	○		○		
合計					5科目	848単位時間(424単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業試験の学科及び実技試験において可以上の成績を修めた者に対し、学校長が卒業の認定を行う。 (留意事項)	1学年の学期区分	前期後期
	1学期の授業期間	48週

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(工業専門課程一級自動車研究科) 平成26年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			自動車工学 I	自動車動力源の新機構について、構造、機能について理解していること。	3 前	40	20	○			○		○		
○			自動車工学 II	自動車シャシの新機構について、構造、機能について理解していること。	3 後	30	15	○			○		○		
○			電子工学	自動車に使用される電子部品及び回路について構造、機能、作動を充分理解していること。	3 前	30	15	○			○		○		
○			自動車力学	自動車走行時の運動力学について、理解していること。	3 後	20	10	○			○		○		
○			自動車整備法 I	自動車動力源の新機構について、点検調整方法を理解していること。	3 前	40	20	○			○		○		
○			自動車整備法 II	自動車シャシの新機構について、点検調整方法を理解していること。	3 後	40	20	○			○		○		
○			EV・HV整備法	電気自動車やハイブリッド車両の点検調整方法を理解していること。	3 後	10	5	○			○		○		
○			高度整備技術 I	電子制御式エンジンについて、点検調整方法を理解し、かつ故障原因を探求できること。	3 前	60	30	○			○		○		
○			高度整備技術 II	電子制御式シャシ部品について、点検調整方法を理解し、かつ故障原因を探求できること。	3 後	60	30	○			○		○		
合計					9科目	330単位時間(165単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業試験の学科及び実技試験において可以上の成績を修めた者に対し、学校長が卒業の認定を行う。 (留意事項)	1学年の学期区分	前期後期
	1学期の授業期間	48週

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(工業専門課程一級自動車研究科) 平成26年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			総合診断	自動車についてお客様からの問診を含み、適切な点検、故障探求ができること。	3後	30	15	○			○		○		
○			環境と安全	自動車が環境に与える影響と廃棄物の処理方法、整備上の安全管理方法を理解していること。	3後	20	10	○			○		○		
○			検査機器	自動車の点検、整備、検査に使用する機器の構造や精度と正しい取扱い方法を理解していること。	3後	20	10	○			○		○		
○			自動車検査	自動車の新規検査、継続検査などに関する内容を理解しており、記録簿をはじめ諸用紙の記入ができること。	3後	10	5	○			○		○		
○			自動車関係法規	自動車や整備業に関する法令を充分理解し、自動車だけでなく、環境保全や安全に関する知識を習得していること。	3後	20	10	○			○		○		
○			教 養 I	整備業界に関する法律、規範について理解していること。	3前	10	5	○			○		○		
○			教 養 II	サービス業務を理解し、実践できること。業務に関係するPCの基本操作ができること。	4後	20	10	○			○		○		
○			指導理論	教育の理念と指導理論を理解していること。	3前	20	10	○			○		○		
○			TQM	QC活動を通して問題の提示および改善策が提案できること。	4後	20	10	○			○		○		
合計					9科目			170単位時間(85単位)							

卒業要件及び履修方法	授業期間等
卒業試験の学科及び実技試験において可以上の成績を修めた者に対し、学校長が卒業の認定を行う。 (留意事項)	1学年の学期区分 前期後期
	1学期の授業期間 48週

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(工業専門課程一級自動車研究科) 平成26年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			工作実習	図面を読み取り、手工具及び溶接機、旋盤等各種機器を使用し、定められた物品が図面通りにでき、安全で正確な作業ができること。	3 前	40	20			○	○		○		
○			測定実習	自動車に関する各種テスター、測定機器を正しく使用し、正確な作業ができること。	3 前	20	10			○	○		○		
○			エンジン実習	エンジンの分解、組立及び調整が安全に効率よくできること。	3 前	40	20			○	○		○		
○			シャシ実習	自動車シャシ部品の分解、組立及び調整が安全に効率よくできること。	3 前	40	20			○	○		○		
○			エンジン電子制御実習	電子制御式エンジンの点検、調整及び故障診断が行え、正確に効率の良い整備ができること。	3 前	100	50			○	○		○		
○			シャシ電子制御実習	電子制御式シャシ部品の点検、調整及び故障診断が行え、正確に効率の良い整備ができること。	3 後	100	50			○	○		○		
○			性能試験実習	シミュレーションテスター、エンジン動力計などを使用し、各種性能試験を行い、各種条件での自動車性能の変化を理解する。	3 後	60	30			○	○		○		
○			各種実習	カーラフトフェンジャー、フロン回収装置、ガラスリペアなど環境に配慮した整備ができること。	3 前	60	30			○	○		○		
○			点検実習 I	故障診断を含む、定期点検作業ができること。	3 前	100	50			○	○		○		
合計					9科目	560単位時間(280単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業試験の学科及び実技試験において可以上の成績を修めた者に対し、学校長が卒業の認定を行う。 (留意事項)	1学年の学期区分	前期後期
	1学期の授業期間	48週

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(工業専門課程一級自動車研究科) 平成26年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			点検実習 II	故障診断を含む、定期点検作業が効率よく安全にでき、故障が修復できること。	3 後	100	50			○	○		○		
○			点検実習 III	高度故障診断作業を含む、定期点検作業が効率よく安全にでき、故障が修復できること。	3 後	100	50			○	○		○		
○			検査実習	定期点検、車検整備、故障整備に係る部分の、効率の良い作業と検査ができること。	3 後	40	20			○	○		○		
○			インターンシップ I	自動車ディーラー、専門工場での整備を体験し、実際の整備方法を学び、整備できること。	4 前	144	72			○		○	○		○
○			インターンシップ II	自動車ディーラー、専門工場での整備を体験し、故障診断、接客方法を学び、整備等できること。	4 後	104	52			○		○	○		○
○			点検・診断実習 I	エンジン、自動車シャシの点検、故障診断ができ、整備ができること。	4 前	100	50			○	○		○		
○			点検・診断実習 II	電子制御式エンジン及び自動車シャシの効率の良い点検、故障診断ができ、整備できること。	4 前	120	60			○	○		○		
○			点検・診断実習 III	電子制御式エンジン及び自動車シャシの点検、高難度故障診断、整備ができること。	4 後	120	60			○	○		○		
○			フロント業務	接客及び整備受付問診を行い、故障個所の予測、整備個所の指示見積もりができること。	4 前	100	50			○	○		○		
合計					9科目		928単位時間(464単位)								

卒業要件及び履修方法	授業期間等
卒業試験の学科及び実技試験において可以上の成績を修めた者に対し、学校長が卒業の認定を行う。 (留意事項)	1学年の学期区分 前期後期
	1学期の授業期間 48週

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

授業科目等の概要

(工業専門課程一級自動車研究科) 平成26年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			教育実習	エンジンなどの分解、組立、点検、調整、整備個所及び整備の仕方が指導できる。	4 後	100	50			○	○	○	○		
○			EV・HV実習	電気自動車やハイブリッド車の構造を理解し、動力源の変更等を行い、保安基準に基づいた改造等ができること。	4 前	100	50			○	○	○	○		
○			各種実習 II	自動車エンジン・シャシの新機構、新技術に対応した整備ができること。	4 後	120	60			○	○	○			
○			総合診断実習	自動車の総合的な問診、故障診断を行い、的確に整備できること。	4 後	120	60			○	○	○			
合計				4科目	440単位時間(220単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業試験の学科及び実技試験において可以上の成績を修めた者に対し、学校長が卒業の認定を行う。 (留意事項)	1学年の学期区分	前期後期
	1学期の授業期間	48週

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。